

災害情報伝達手段に関するアンケート総括

総括

結果

アンケート結果については、配布数1,457件中、907件回答があり、回答率は62%となりました。生活面では、日中は町内・町外に出る人が多くなっています。なお、家族の約7割は携帯・スマートフォンなどの個人連絡ツールを所有している結果となりました。

また、防災情報は、かわべえメール及び防災行政無線が多く、つづいて、テレビ・ラジオを使用し収集することとなっております。

また、情報発信に関する調査では、全体的に認識が低くなっており、更なる周知が必要との回答がありました。防災行政無線については、聞き取れないとの回答が多く、サイレンの場合は半数以上が聞こえるとの回答がありました。

情報収集手段については、かわべえメールと防災行政無線が多く、つづいてテレビ・ラジオ等の結果になりました。

アンケート結果の特徴については、下記の通りです。

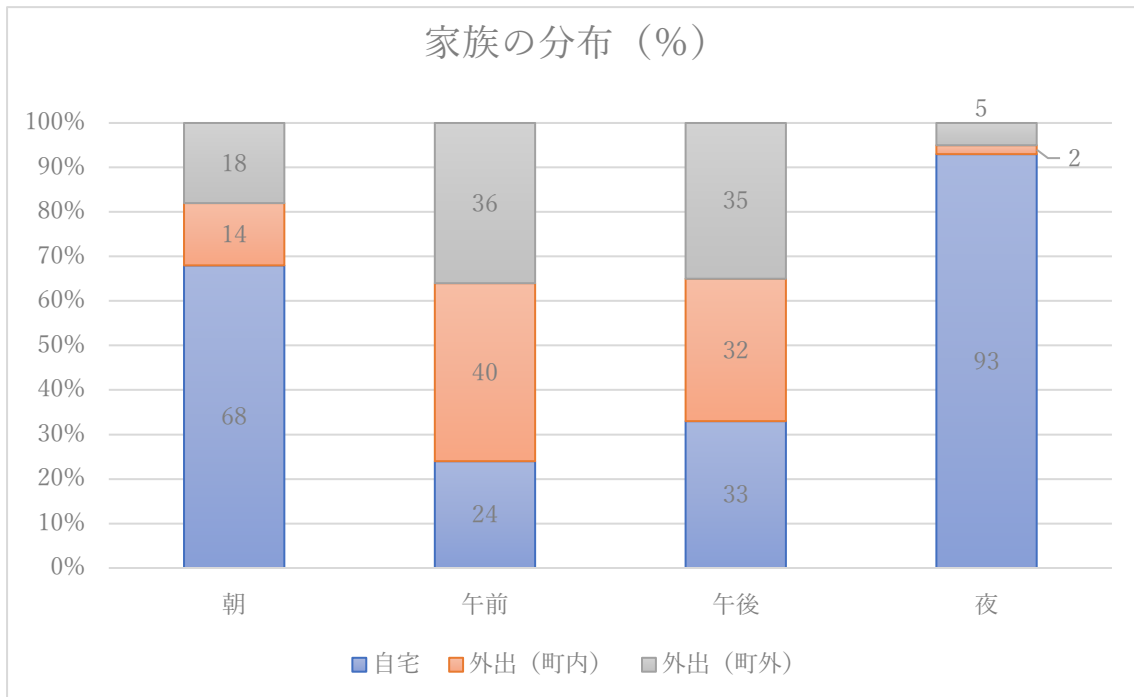
- 1) 日中は、仕事で町内、町外に出る人が多いが、家族の約7割は携帯電話を所有している。
- 2) 現在の防災行政無線は、多くの人が情報収集方法としているが、聞こえにくいとの回答が多い。
- 3) 平常時、災害時共に、かわべえメールと防災行政無線を収集方法としている。

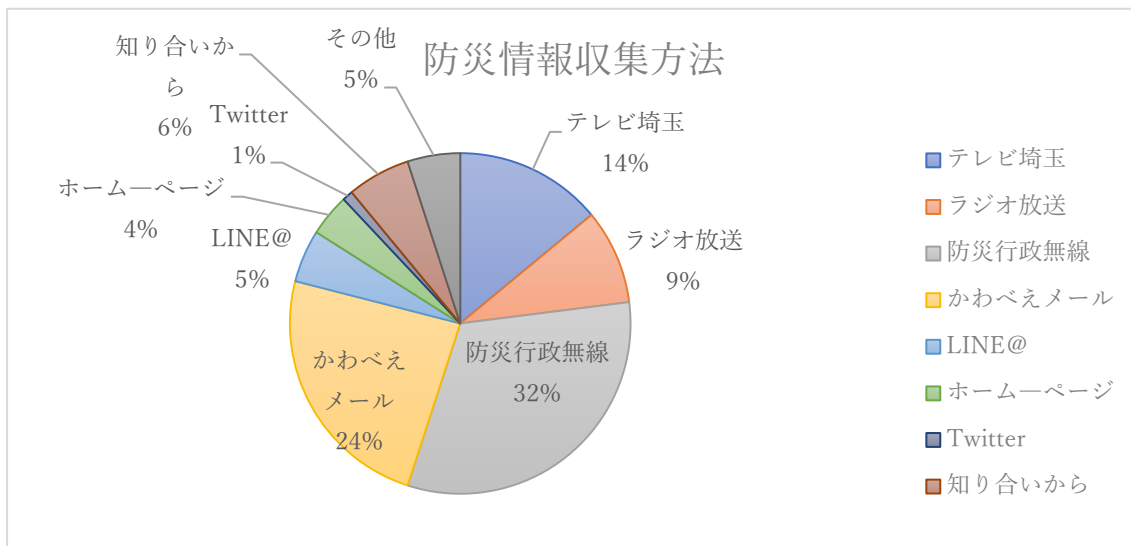
各項目ごとの結果について

生活について

川島町の家庭は、日中、仕事で町内、町外に出る人が多く、家には人がいない可能性が高い結果となりました。また、家族で携帯電話・スマートフォンを所有している人が69%います。また、かわべえメールについては、家族の中で約19%の人が登録しています。

家族の防災の防災情報の収集方法には、半数以上が、防災行政無線とかわべえメールにて収集しており、つづいてテレビ・ラジオとの回答がありました。



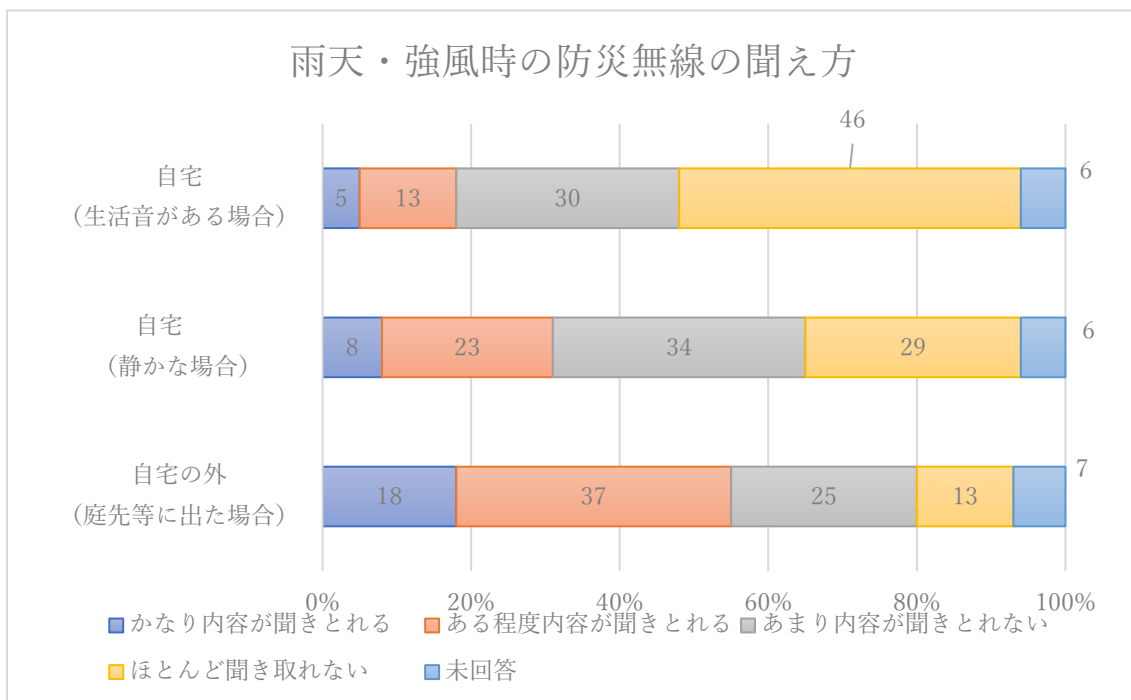


町からの情報発信について

町からの情報発信の認識については、世帯主のかわべえメール登録者は、33%となっており、全体的に認識が低くなっております。

また、防災無線の伝達状況においては、外に出ないと聞こえないという人が多く。また、雨天・強風時は、さらに低くなっており、外に出ても半数の世帯で聞こえない状況となっております。

サイレンの場合は、自宅でも聞こえる世帯が約7割から8割という結果になりました。



情報収集手段について

町民が必要としている情報は、気象情報が最も多く、その次に防犯情報、続いてイベント情報という結果になりました。

各種情報の収集方法については、かわべえメール・防災行政無線が最も多く合わせて半数を占めています。

また、災害前の情報収集は、防災行政無線・かわべえメールが多く半数を占めており、災害後の情報収集についても、同様の結果となりました。

